
軋む会話輯（５） サンプル

大杉 顕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

軋む会話輯（5） サンプル

【Nコード】

N7832Y

【作者名】

大杉 顕

【あらすじ】

現代における不条理な会話の数々。

或る中堅企業にて。

登場人物

A 開発課主任。近頃転職してきたばかり。

B 営業課長。独断的だが面倒見のいいベテラン。

C 物流課主任。長年在籍している。物流課の主のような存在。

16:45。開発課にて。

B：おお、良かった。Aさん！

A：あ、お疲れさまです。どうしました？

B：いやね、午前に話してた件、やっぱり依頼来ちゃった。サンプル9個用意できる？（掛時計を見ながら）明日でもいいんだけど。

A：（こちらも時計を確認し）大丈夫ですよ。今日中に用意しておきます。18:00までには何とか。

B：あ、そう。じゃあ、よろしくお願い。あのさ。用意できたらさ。物流ルームまで届けてくれない？物流にCさんっているからさ。渡しておいて。

A：物流のCさんですね？いいですよ。

B：それじゃ、頼みました。

A：はい。

17:30。物流ルーム。かなり散らかっている。慌しく人が行き来している。物流課主任Cが電話で相手を厳しく問い詰めている。Aはサンプルのケースを抱えて入ってくる。

Cが電話を終え、部屋から出て行くとする。

A：あの……、すみません。

C：え？なに？

A：Cさんですか？

C：そうだけど、なに？

A：あ、あの、開発のAと申しますけど、こちらお持ちしました。

C：ん？なにこれ？誰に頼まれたの？

A：営業課長のBさんです。

C：Bさん？Bさんは営業課の人間。ここは物流。何でここに持つてくるのよ？営業はひとつ上の階だから。

A：あ、ええ。それは分かりますけど……、Bさんにここに持つてくるように依頼されたので……。

C：（Aが胸にぶら下げている従業員カードを見ながら）あ、そう。先に言えよ、そういうこと。あゝ、じゃ、そこに置いといて（近くのテーブルを指差す）！

A：でも、これ、かなり機密性の高いものなので……。

C：ちつ、面倒臭えな。おゝい、お前（スタッフを手招きする）、荷物預かって、あとでBさん来たら渡してやれ。それでいいよな？開発さん？

A：あ、はい。申し訳ありませんが、よろしく願います。

18：00 開発部。Aが内線かける。

B：はい。営業課Bです。

A：お疲れさまです。開発のAです。

B：あ、どうもどうも。お疲れさま。

A：先ほど、ご依頼のあったサンプルを物流課のほうに届けておき

ました。

B：うん、今ちょうど、物流で受け取ってきたところ。

A：あ、そうですか。それでですね。サンプルの中のひとつなんです（以下、業務上の説明をしばらく話す）

B：了解です。それでOKです。

A：よかったです。ありがとうございます。それでは失礼します。

B：ちょっと待って。物流でCさんに何か言われた？

A：いえ？特に。

B：そう。それならいいけど。ま、口の利き方の知らない女性だけどさ。何か言われても気にしないでおいてな。

A：大丈夫です。お気遣いありがとうございます。失礼します。

B：はい。どうも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7832y/>

軋む会話輯（5） サンプル

2011年11月23日12時56分発行